

令和元年6月28日

# WWLコンソーシアム構築支援連絡会 講評

企画評価会議協力者 笹尾幸夫

# 1 W W L コンソーシアム構築支援事業の 選考について

応募数

17件

国立2

公立9

私立6



厳正な選考

書面審査

ヒアリング審査



採用数

10件

国立2

公立5

私立3

## 2 W W L コンソーシアム構築支援事業の成否

### (1) 管理機関の取組の姿勢

本事業の委託先は管理機関

- 管理機関の長の役割  
学長、教育長、理事長の関わり度
- 管理機関の負担額  
3年後を見据えた計画的予算

## 2 WWLコンソーシアム構築支援事業の成否

### (2) イノベーティブなグローバル人材の育成 グローバルリーダー

- 文理両方を学ぶ

教育再生実行会議第十一次提言（令和元年5月17日）

- ALネットワークの活用

海外事業連携校と同一テーマで課題研究

日本において高校生国際会議を実施

大学との連携で課題研究の質向上

## 2 WWLコンソーシアム構築支援事業の成否

### (3) 計画の実現性

- 指定期間はわずか3年  
可能な事業は1年目から実施  
他の事業も準備・実施・改善で3年
- 過去や現在の研究成果を最大限活用  
SGH校、SSH校、SPH校の協力  
地域の伝統校の協力

## 2 WWLコンソーシアム構築支援事業の成否

### (4) 予算の使い方

1,000万円程度／件（1年目）

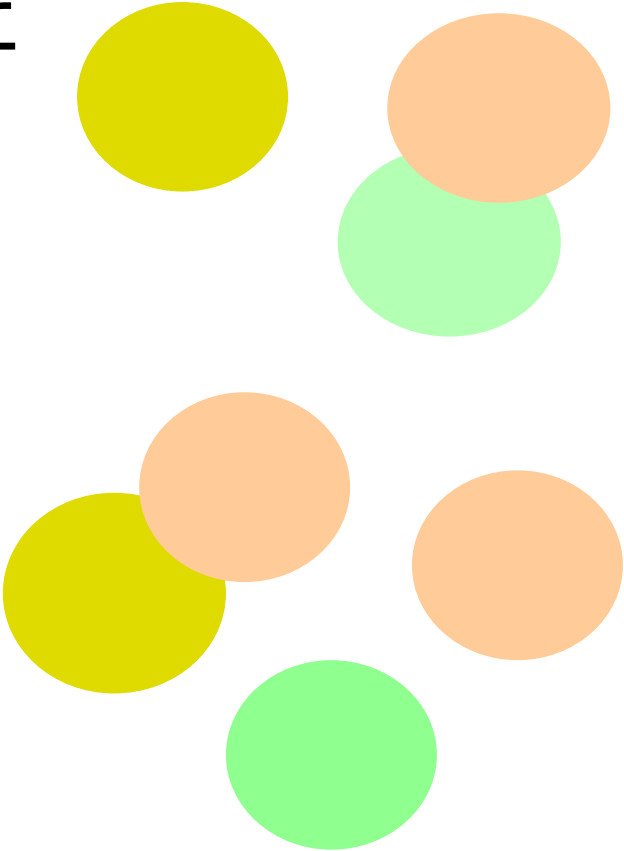
- 研究対象の生徒数増加を工夫  
生徒の海外研修旅費は一部補助
- 次年度以降の予算  
管理機関の負担額増  
個人負担や寄付の検討

## 2 W W L コンソーシアム構築支援事業の成否

### (5) 事業評価と事業PR

- 客観的な事業評価  
目に見える形での成果
- 各管理機関などでもPR  
マスコミを活用

### 3 WWLコンソーシアム構築支援事業の今後

- 高校生6万人あたり1カ所を目安に各都道府県で国公立高校などを拠点校として整備
  - 第1期の成果が次年度以降に影響
    - 来年度の予算額
    - 来年度の応募数
    - 3年後の再指定
  - SGHだけでなく、SSH、SPHを束ねる事業？
- 
- A decorative graphic consisting of several overlapping circles in yellow, orange, and light green, arranged in a cluster on the right side of the slide.